

お早うございます。

昨日まで合計1200個をお買い上げ戴けました。中には1社単位で10パックもご注文戴き、嬉しい悲鳴を実感しております。皆様のご協力に対し心から厚くお礼申し上げます。

過日の事務局便りの案内の中でOS CIPについての問い合わせが一番多く御座いましたので青文字で補足説明させていただきます。

なお、バッジの使い方にはこれと言ったお決まりはなく、縦横お好きなようにご使用されても結構と思います。

事務局便り JD-07/08

2008年3月7日

ブラジル日本商工会議所  
事務局長 平田 藤義

各位

## 日伯交流年(移民100周年)記念バッジの委託販売の件

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

さて、年初早々1月16日、当会議所や日本経済新聞社などが共催の形で開催した経済シンポジウムを皮切りに両国家間で移民100周年記念、また次の100年を見据えた交流年にちなみむ各種イベントや行事が今、全伯レベルで目白押しに開催されております。

特に去る1月17日ブラジリアにおいて大統領のご出席下、交流年記念式典の幕が切り落されて以来、州政府や市レベルでも記念祝賀会や行事・イベントが盛んに執り行われ盛り上がりつつあります。

2007年2月大統領令により、25省庁による「100周年記念事業國家組織委員会」が設置されたからに他ありません。

当会議所も100周年協会およびその募金を司る特に日系主要5団体で構成するOS CIP(公益民間組織の免税口座団体<sup>\*</sup>)の一員としても、この交流年を最大限に盛り上げていく使命を担っております。

経済シンポはその一環として開催、超満員の中、盛大に行われ成功裡に終わりましたが、やがてその経済効果は計り知れないばかりか、きっと経済連携協定(EPA)推進のきっかけとなって現れて来るでしょう。

100周年主要行事は年央の6月に集中することになっておりますが、年間を通じ交流年のムードつくりが大切であります事は言うまでもありません。そのスタートは夫々の胸につけるバッジであり広くブラジル人にも啓蒙することから始まります。

このたび、当会議所も執行部のメンバーとして参加している100周年実行委員会の委員長から特別なご依頼もあって、このバッジ販売を通常書籍販売ルートで引き受けることになりました。

については協会への募金も兼ね合わせ御社の従業員、サプライヤーおよび顧客へもプリント(ボールペンなどの景品)として出来る限り多くの方々にお使いになって戴けますようにご購入下されば甚だ幸いです。ご協力のほど重ねて心から宜しくお願ひ申し上げます。

敬具

記

お申し込み方法

通常書籍販売要領と同じく

担当:柴田 電話:テイコ 3287-6233 メール:[secretaria@camaradojapao.org.br](mailto:secretaria@camaradojapao.org.br)

最低販売(包装)単位:20個入りパック 単価:R\$100/パック

100周年協会との委託販売方式で会議所から領収書を発行します。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

予約数: ( )パック

当所HPの100周年記念コーナーにご協力企業(個人)名のみ掲載させて頂きますので予めご了承下さい。

OS CIP(公益民間組織の免税口座団体<sup>\*</sup>)について

100周年記念協会の募金受け皿を目的として2006年12月21日、日系主要5団体(ブラジル日本文化福祉

協会、ブラジル日本商工会議所、ブラジル日本文化連盟、サンパウロ日伯援護協会、ブラジル日本都道府県人会連合会)がO S C I Pとして Instituto Brasil-Japão de Integração Cultural e Social を創設。その監査は100周年記念協会を含め国際独立監査法人(当所会員企業)を行い、さらに Instituto Brasil-Japão de Integração Cultural e Social の監事についても会員企業の別な国際独立監査法人2社から正副・監査役が各々1名就任。